

# 令和3年度 八幡浜市総合教育会議議事録

- 1 日時  
令和3年11月18日（木） 9：57～11：06
- 2 場所  
八幡浜市役所八幡浜庁舎3階庁議室
- 3 出席者
  - (1) 構成員  
大城一郎市長、井上靖教育長、菊池誠教育委員、上田純子教育委員、  
泉俊也教育委員、山下貴満教育委員
  - (2) 構成員以外の出席者  
副市長、総務企画部長、総務課長、総務課長補佐、教育指導主幹、学校教育課長、  
生涯学習課長、学校教育課長補佐、生涯学習課長補佐、生涯学習課係長
- 4 市長あいさつ  
本会議は、私と教育委員会との情報交換、連携強化の場として定期的に開催しているもの。今回の会議では「令和3年度全国学力学習状況調査結果について」と「旧八幡浜市立図書館の保存について」の議題を設けている。限られた時間であるが、有意義な会にしたいのでよろしくお願ひしたい。
- 5 議事
  - (1) 令和3年度全国学力学習状況調査結果について  
【事務局】説明  
全国学力学習状況調査が令和3年5月27日に行われ、本市は小学校の国語・算数、中学校の国語・数学において、全国平均・県平均を上回る結果であった。  
  
学力とは別に、学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問があるが、小・中学校とも家庭での読書の時間や新聞を読んでいるかという質問に対して肯定率が50%を下回る結果となった。これは全国的な傾向でもあり、各校でも読書時間の確保に対し、家庭への啓発も含め対策を行っているところである。  
  
授業におけるICTの活用については、使用頻度が少ない結果となったが、5月に一人一台端末が導入され、秋の学校訪問では、積極的に使っていることを確認しているので、この割合は今後高まっていくと予想される。  
  
令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止に伴う臨時休業があり、そのことに特化した質問があった。本市の小学校でも休業期間中、勉強について不安を感じた児童が53.4%いたが、そのような不安の中でも、計画的に学習できた児童が69.

1%、規則正しい生活を送った児童が66.8%いた。このことから安定した生活習慣は学力向上につながっていると考えている。中学校においても休業期間中、勉強について不安を感じた生徒が66.6%いたが、そのような不安の中で計画的に学習できた児童が50.9%、規則正しい生活を送った児童が60%となっており、全国的には高い割合となっている。

今年度の結果は、全国、県と比べても良い結果となった。このことは、各学校で作成した学力向上推進計画に基づいて、児童生徒の実態を把握し、それに正対した取り組みを続け、その中で授業改善のための校内研究の充実を図ってきた成果の一つであると捉えている。また、八幡浜市独自の教育活動指導員の配置やブロック別研修による効果の表れでもあると捉えている。

一方で、必要な情報を読み取りながら、自分なりの考えを書くタイプの問題に課題が見られた。課題解決に向けて、授業の中で言語活動を効果的に位置づけるなど、さらなる授業改善を進めてく必要があると考えている。

#### 【菊池委員】

まさにコロナ禍だったという結果であると思う。中学生のゲームの時間が非常に多くなっている。一人一台端末も導入されたので、今後はICTを使った授業が進んでいくと思う。

#### 【山下委員】

小・中学校ともに、学校に行くのが楽しいという質問に対して肯定率が高い。子どもたちにとっての「楽しい」は色々あると思うが、日々の各学校での取組みの積み重ねが今回の結果に繋がった要因であると思う。

#### 【泉委員】

以前は、朝食を食べてくる子どもが少ないと言われていたが、今年の秋の学校訪問では、ある校長先生が「結構みんな食べて来ている」と言われていた。朝食と学力とは、直接は関係ないかもしれないが、良い方向に向かっているのではないかなと思う。

#### 【市長】

不安があったけど、コロナ禍のなかでも結果的には学習ができたという結果について、環境面でそういうのがあったのか。友達との信頼関係やコミュニケーションがあったからか、あるいは先生方が頑張ってやられたからできたのか、という点をお聞きしたい。また、今年は特に全国と平均しても良い結果であったが、例年との比較についてはどうか。

#### 【事務局】

ある学校では、コロナ禍で接触ができなかったので、プリントを渡して、できた課題を自宅のポストに入れておき、このポストに入れた課題を先生が取っていた事例があった。その際、課題と一緒に、先生ありがとうございますという手紙が入っている

学校があった。各学校において、できる限りのコミュニケーションを取る努力をしていたことは今回の大きなポイントだったと思う。

例年との比較については、毎年、全国や県と比べても低いということではなく、平均よりも若干上に位置している。そのときの学年の状況にもよるところもあるが、学校現場としては、どの子どもたちであっても、ある程度の一定水準を取らせるような努力をしている。

#### 【上田委員】

先生方の日頃の積み重ねがこの成果に結びついていると思う。ゲーム依存については今後指導が必要である。

#### 【教育長】

教員が家庭訪問した際の手紙の話を紹介したが、一つや二つの学校ではなく、多くの学校で同様の事例があった。大変ありがたいと思う。

コロナ不安については、中学生の場合は全国よりも4ポイント高くなっているが、小学校はそうでもない。ところが、計画的に学習をしたかという問いには、「できた」と「まあまあできた」を合わせて、50.9%となっている。この数字だけを見ると、大したことないと思われるかもしれないが、全国平均は37.7%となっている。不安の気持ちが高い中学生だったが、計画的に学習ができたのは13ポイント高いということは八幡浜市の子どもたちが、すごく落ち着いてやれたのではないかと思う。

また、例年との比較は、中学校は概ね県平均よりも上になっているが、小学校はほとんど平均と変わらないというような状況である。今回は、算数が特に上がっており、これは小学校の先生方の毎時間の授業や補充学習などが決め手となっているのかなと思う。近年、道徳の教科化や新学習指導要領が実施されるなど、学校現場は変化が多く、大変な状況である。今年はギガスクールが入ってきて、さらに大変になっているが、やはり学級の集団が落ち着いているから、学習に取り組んでいるのであってそうした安定感の部分が結果に結びついていると思う。

#### 【市長】

朝食をしっかり食べて、学校に行くことが楽しいという子どもが多いということは、やはり学ぶことに喜びを感じているからではないかと思う。

そのような環境を作られている学校の先生方をはじめ、地域の方や保護者の方と連携をとりながら、今後も子どもたちが学ぶ環境を整えていきたいと思っている。今回は素晴らしい結果であったが、これを継続していきたいと思う。

#### (2) 旧市立図書館の保存について

##### 【事務局】説明

- ・平成30年9月議会の市議会協議会での説明内容の説明
  - 1 目指すものとして
  - 2 計画地周辺の位置図
  - 3 関連施設の概要

#### 4 エリア全体の概要

- ・旧図書館の来歴と特徴等の説明
- ・旧図書館を保存建築するにあたっての検討課題等について説明

##### 【上田委員】

外から見ただけでは価値が分からなかったが、写真をみて、はじめて様々な影響を与えているものと思った。子どもを中心に考えて、入りやすい施設にしてほしい。今の文化活動センターは、一見入りやすそうであるが入りにくいと感じる。

##### 【市長】

当然そのようにしていきたい。このまま残すのではなく、デザインを残していくということで、ほとんど新築になると思うが、内部の残せそうなところがあったら残していきたい。「あすもわ」や「みなせ」など、放課後になると、近所から子どもたちが集まり賑いを生んでいる。街中でそのような施設ができれば良いと思っている。

##### 【泉委員】

教育委員になるまで、川之内小学校や長谷小学校などが文化財としての価値があるということを知らなかった。そのような学校の有効利用についても考えてほしい。

##### 【市長】

長谷小学校については、みかんアルバイターの受け入れ施設として、また高野地フルークラブの工房として、マーマレードも作っている。川之内小学校も何とか保存していきたいと考えており、今後の方向性を模索しているところである。中津川公民館は現役の公民館として、しっかりと利用されている。

##### 【山下委員】

文化ゾーンとしての目的もあるので、子どもから年配の方々が利用できる敷居の低い、活用できる施設を望みたい。

##### 【菊池委員】

旧図書館は高校時代によく行っていて、テラスで勉強をしていた記憶がある。今回、移築ではなく、このデザインを残すということで安心した。できれば色は統一したほうがよいと思う。

また、松村建築活用の仕組みづくりとして、例えば川之内小学校を展示室にして、まずは資料館を見てもらってから、市内のその他の建築物を回ってもらうなどのシステムができれば、今あるものを生かせるのではないかと思う。

##### 【教育長】

現在、菊池清治邸は八幡浜青年会議所の事務所として活用されており、先日も記念事業として「竹ぼんぼり」が開催された。整備しただけではだめで、人が集まってくれるような取組みが大事だと思っている。

**【市長】**

松村建築を代表するものとして、「色」、「光」、「風」の3つがあげられる。それぞれが松村建築の重要な要素であるので、専門家の先生方としっかり協議しながら進めていきたい。

また、文化活動センターと銀座商店街がほとんど繋がるように、駐車場整備を進めているが、駐車場を抜けたところに忠八翁の生誕地がある。この生誕地についても活用可能な空間になってくると思うので、名誉市民を顕彰するような施設も含め、文化ゾーン全体として、広い視野でご意見をいただきたい。事務局、他に何かありますか。

**【事務局】**

委員の皆さんのご期待に沿えるよう頑張りたい。

6 その他

G I G Aスクール構想の進捗状況について

**【市長】**

11月7日の読売新聞に掲載されていた記事（1人1台の学習端末に関するいじめなどのトラブル）について、新居浜市の教育長と話をする機会があり、都会よりも田舎のほうがトラブルになりやすいのではないかと危惧されていた。一方で、小学校から中学までの9年間、ICTに触れることで大きく飛躍する力が付くのではないかという視点もあり、その両面から注意していかなければならないと言われていた。

市が全戸配布した1人1台端末について、1年が経過してどのような利用状況になっているのか伺いたい。

**【山下委員】**

新聞記事の内容は想定できることだと思う。端末の使い方など、誰がルールを作るのかが一番大事ではないか。学習端末でなくても、スマホの所有も当たり前になってきている。たまたま教育端末だったのであって、このことは社会問題という気がする。

**【上田委員】**

問題が起きるので各家庭に持って帰らせないということになると、これまた問題である。ルール作り、各家庭のスマホの使い方の指導をしっかりとしないといけない。

**【市長】**

自宅でも授業ができるというようなことが利点なのに、逆に持って帰ったら変なことが起きるとから持って帰らないというのでは本末転倒である。しっかりとルールを決めた上で、子どもたちの学力向上に繋がるような形の仕組みが必要である。

**【菊池委員】**

現時点では、持ち帰っている学校は少ない。自宅でどのような使用をしたかということは、学校で確認できるので不正使用した場合はそれが分かる。私らも専門家ではない

ので、場合によっては専門的な知識のある人に対応してもらう必要がある。

**【泉委員】**

定例会でも同じことを言ったが、学校訪問で気づいたことがある。タブレットを使った授業の際、各タブレットにクラスの子どもの回答が全部出てくるが、中には回答を間違えたり、回答が遅い子どももいた。どういうきっかけでいじめにつながるか分からないので、先生方には今まで以上に注意を払っていただきたい。

**【市長】**

社会が大きく変わってきていると思う。昔は携帯電話もなかったが、携帯が今やスマホになって、この時代に生まれてきた子どもたちにはもう当たり前かもしれない。先生方は大変だと思うが、今後の社会を見据えて子供たちを育成していかないといけない。

閉会